

第 10 回 西日本インカレ（合同研究会）専用企画シート

必ず<企画シート作成上の注意>をご確認いただき、ご記入をお願いいたします。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
リュウコクダイガク	フリガナ ケイエイガクブ	イワタ ヒロシ
龍谷大学	経営学部	岩田 浩

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
スイカハシオカケテタベルハデスカ?	スズキ マリナ	5
すいかは塩かけて食べる派ですか?	鈴木 稔奈	

研究テーマ（発表タイトル）

高齢者事故の現状と課題について

1. 研究概要（目的・狙いなど）

高齢化が進む日本において、近年増加傾向で社会問題である高齢者ドライバーの事故に目を向け、様々な視点から高齢者ドライバーによる事故の対策を講じ、高齢者や私たちの身の安全を守る。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

日本では高齢者の数が急速に増えてきており、平成 28 年 10 月 1 日現在、65 歳以上の人口は 3,459 万人となり、総人口に占める割合（高齢化率）は 27.3%と約 4 人に 1 人となっている。平成 28 年末の運転免許保有者数は約 8,221 万人である。このうち、75 歳以上の免許保有者数は約 513 万人（75 歳以上の人口の約 3 人に 1 人）で、27 年末に比べ約 35 万人（7.3%）増加し、今後も増えていくと予想される。その中で、75 歳以上の高齢者の死亡事故件数は 75 歳未満の運転者と比較して、免許人口 10 万人当たりの件数が 2 倍以上多く発生している。最近、ニュースで見た大きな事故としては池袋交通事故がある。87 歳男性が運転する乗用車が赤信号を無視して暴走。女儿（3）と母親（31）を死亡させ、さらに歩行者 4 人をはねるなどして合計 8 人が重軽傷を負った。また、他にもニュースで取り上げられることも多く、現代の社会問題の一つである。

3. 研究テーマの課題

高齢ドライバーの方向けにアンケート調査した結果、生活の為には運転しなければならない方や趣味で無くなってしまうと精神的に苦痛を感じてしまう人などがいるという結果になった。単に免許返納や高齢者運転禁止で終わる問題では無い。高齢ドライバー問題は、高齢者の加齢による能力低下のみの問題だけではなく、交通の便が悪い、過疎化など様々な要因で高齢者が運転しなければならない状況が引き起こしている。マスコミはニュースでも高齢者のせいであるという報道をしているが、実際そうでは無いという発見から高齢ドライバーの課題は、いかに運転機会を減らすかといかに事故を減らせるかの二点に絞られる。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

免許返納の制度の改善やメーカーによるサポートカーの低価格化による普及、また国による助成金の援助。

高齢者講習の改善および、運転資格の見直しを図る。

貨物と人の運行を一緒に行い、交通の便を図る新たな取り組みである貨客混載により、運転の機会を減らす。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

1. 京都府南丹市園部町でインタビュー調査を実施

目的 京都の郊外へ行き、実際の声を聞いて高齢者が運転をしなければならない現状を知る

場所 衣料品店の駐車場

人数 11人

日時 9月22日

2. 京都府自動車学校で高齢者講習を受講した方にアンケート調査を実施

目的 高齢者がどのような目的で運転しているのかを知るため

場所 京都府自動車学校

人数 名

日時 10月10日～31日

3. オートバックスの担当者にインタビュー調査

目的 高齢者が実際にどんな運転アシスト装置を購入しているのかを知るため

場所 オートバックス滋賀店

日時 10月7日

6. 結果や今後の取り組み

結果は、高齢者も様々な目的で運転しなければならない状況だった。高齢者ドライバーの事故を高齢者だけのせいにするのではなく、今後行政をはじめ車のメーカーも値段設定やサポカーの普及に力をいれなければならない。また、免許返納を進める為にも家族や周りの人たちが協力していかなければならない。より高齢化が進む日本では高齢者だけでなく私たちの世代もこの実情を認知する必要がある。

7. 参考文献

高齢者を取り巻く現状 平成29年交通安全白書（概要）－内閣府（アクセス日8月21日）

https://www8.cao.go.jp/koutu/taisaku/h29kou_haku/gaiyo/features/feature01.html

貨客混載を通じて自動車運送業の生産性向上を促進します～過疎地域等で人流・物流の「かけもち」を可能に～ 国土交通省（アクセス日9月23日）

www.mlit.go.jp/report/press/jidosha04_hh_000134.html

●パワーポイント内に動画を使用されている場合、動画を使用しているスライドのページをご記入ください。

1ページ

●発表時に使用する成果物（例. 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査に使用したアンケート）

調査に使用したアンケート

- ・本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。
- ・本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、翌年3月に公開予定の「日経ビジネス電子版」にリンクされた特設サイトに掲載されます。
- ・本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ・本企画シートは、作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。
- ・大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ・商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、著作権の使用許諾を得てください。日経BP社・日経BPマーケティングは一切の責任を負いません。
- ・書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。
- ・発表時に使用する成果物がありましたらご記入ください。記入がない成果物は大会当日使用することができません。また記入いただいた内容について、事務局から代表者の方に確認をさせていただく場合がございます。
- ・電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

↑ここまでを4ページ以内に収めて、提出してください↑